

令和4年度 佐賀大学2次試験前期日程 (数学問題)

理工・医・農・教育学部 令和4年2月25日

- 理工学部 [1] [2] [3] [4] 数I・II・III・A・B (120分)
- 医学部 [1] [3] [5] [6] 数I・II・III・A・B (120分)
- 農学部 [1] [2] [7] [8] 数I・II・A・B (120分)
- 教育学部 [1] [2] [7] 数I・II・A・B (100分)

[1] 座標空間内の4点 $O(0, 0, 0)$, $A(2, 0, 0)$, $B(2, 2, 0)$, $C(0, 2, 0)$ について

$$OD = AD = BD = CD = 2$$

を満たす点 D で, その z 座標が正, 負になるものを, それぞれ D_1 , D_2 とする. 次の問に答えよ.

- (1) 2点 D_1 , D_2 の座標を求めよ.
- (2) 点 $P(1, 1, 0)$ と実数 a , b について

$$a\overrightarrow{OA} + b\overrightarrow{OD_1} - \overrightarrow{OP}$$

が2つのベクトル \overrightarrow{OA} , $\overrightarrow{OD_1}$ に垂直であるとする. このとき, a , b の値を求めよ.

- (3) 6点 O , A , B , C , D_1 , D_2 を頂点とする正八面体を V とし, V のすべての面に内側から接する球を S とする. このとき, S の半径を求めよ. また, V の各面と S とのすべての接点を頂点とする凸多面体について, その名称を答え, 各辺の長さを求めよ.

[2] n を5以上の整数とする. 1枚の硬貨を投げる試行を n 回繰り返すとき, 表が出る回数が, ちょうど n 回目の試行で5になる確率を p_n とする. 次の問に答えよ.

- (1) p_6 の値を求めよ.
- (2) p_n を n を用いて表せ.
- (3) $\frac{p_{n+1}}{p_n}$ を n を用いて表せ. また, p_n の最大値を求めよ.

3 関数 $f(x) = e^{-x^2}$ について、正の定数 a は $f''(a) = 0$ を満たすとする。次の問に答えよ。

- (1) a の値を求めよ。また、関数 $f(x)$ のグラフの凹凸を調べ、変曲点を求めよ。
- (2) 曲線 $y = f(x)$ と直線 $y = f(a)$ で囲まれた図形を、 y 軸の周りに 1 回転させてできる立体の体積を求めよ。

4 複素数 z について、 $1, z, z^2$ を表す複素数平面上の点をそれぞれ A, B, C とする。次の問に答えよ。

- (1) 点 A, B, C が正三角形の 3 つの頂点となる z をすべて求めよ。
- (2) 点 A, B, C が直角三角形の 3 つの頂点となるための z に関する条件を求めよ。また、この条件を満たす点 z 全体を図示せよ。

5 n を 5 以上の整数とする。1 枚の硬貨を投げる試行を n 回繰り返すとき、表が出る回数が、ちょうど n 回目の試行で 5 になる確率を p_n とする。次の問に答えよ。

- (1) p_n を n を用いて表せ。
- (2) p_n の最大値を求めよ。

6 複素数 z について、 $1, z, z^2$ を表す複素数平面上の点をそれぞれ A, B, C とする。次の問に答えよ。

- (1) 点 A, B, C が正三角形の 3 つの頂点となる z をすべて求めよ。
- (2) 点 A, B, C が直角三角形の 3 つの頂点となる点 z 全体を図示せよ。

7 放物線 $y = x^2$ を C とし、 C 上の点 $P(t, t^2)$ における接線を l とする。次の問に答えよ。

- (1) 直線 l の方程式を求めよ。
- (2) $0 < t < 6$ のとき、放物線 C 、直線 l と x 軸で囲まれた図形の面積を $S_1(t)$ とし、放物線 C 、直線 l と直線 $x = 6$ で囲まれた図形の面積を $S_2(t)$ とする。 $S_1(t) + S_2(t)$ を $S(t)$ とおくと、 $S(t)$ を t を用いて表せ。
- (3) 点 $P(t, t^2)$ が $2 \leq t \leq 5$ を満たしながら放物線 C 上を動くとき、(2) の $S(t)$ の最大値と最小値を求めよ。

8 a, b を整数とし, 整式 $x^3 + ax^2 + bx + 2$ を $P(x)$ とおく. 次の問に答えよ.

(1) $P(x)$ が, 整数 n と定数 p, q により

$$P(x) = (x - n)(x^2 + px + q)$$

と表されるとき, p と q は整数であることを示せ. さらに, n は 2 の約数であることを示せ.

- (2) 方程式 $P(x) = 0$ が異なる 3 つの整数解をもつような a, b の組 (a, b) を求めよ.
- (3) 方程式 $P(x) = 0$ が整数解と実数でない解をもつような a, b の組 (a, b) の個数を求めよ.

解答例

- 1 (1) P(1, 1, 0) は D から平面 OABC に降ろした垂線の足である.

$$OP = \sqrt{2}, \quad OD = 2 \text{ より}$$

$$PD = \sqrt{OD^2 - OP^2} = \sqrt{2}$$

D_1, D_2 の z 座標の符号により

$$D_1(1, 1, \sqrt{2}), \quad D_2(1, 1, -\sqrt{2})$$

- (2) $O(0, 0, 0), A(2, 0, 0)$ および (1) の結果から

$$\begin{aligned} a\vec{OA} + b\vec{OD}_1 - \vec{OP} &= a(2, 0, 0) + b(1, 1, \sqrt{2}) - (1, 1, 0) \\ &= (2a + b - 1, b - 1, \sqrt{2}b) \end{aligned}$$

これがベクトル $\vec{OA} = (2, 0, 0), \vec{OD}_1 = (1, 1, \sqrt{2})$ に垂直であるから

$$2(2a + b - 1) = 0, \quad 1(2a + b - 1) + 1(b - 1) + \sqrt{2} \cdot \sqrt{2}b = 0$$

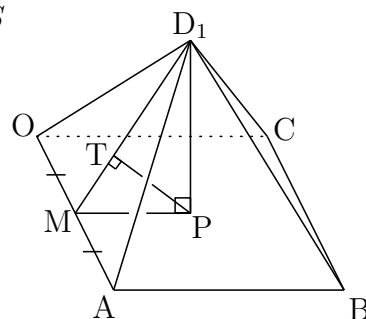
それぞれ整理すると $2a + b = 1, \quad a + 2b = 1$ よって $a = b = \frac{1}{3}$

- (3) 辺 OA の中点を M とし, 平面 OAD_1 と球 S の接点を T とすると

$$2\triangle MPD_1 = MD_1 \cdot PT = MP \cdot PD_1$$

したがって $\sqrt{3}PT = 1 \cdot \sqrt{2}$

よって, 半径は $PT = \frac{\sqrt{6}}{3}$



(2) の結果より, $\vec{OT} = \frac{1}{3}\vec{OA} + \frac{1}{3}\vec{OD}_1$ であるから, T は $\triangle OAD_1$ の重心. $\triangle BCD_1$ の重心を T' , 平面 OABC に関して T と対称な点を T'' とすると

$$TT' = \frac{2}{3}OC = \frac{4}{3}, \quad TT'' = \frac{2}{3}PD_1 = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

$\triangle OAD_1, \triangle ABD_1, \triangle BCD_1, \triangle COD_1$ の 4 重心が凸多面体の頂点であり, その 1 辺の長さは

$$\frac{1}{\sqrt{2}}TT' = TT'' = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

よって, 凸多面体は立方体である. ■

2 (1) p_6 は, 5回目までに表が4回出て, 6回目に表が出る確率であるから

$$p_6 = {}_5C_4 \left(\frac{1}{2}\right)^5 \times \frac{1}{2} = 5 \left(\frac{1}{2}\right)^6 = \frac{5}{64}$$

(2) p_n は, $n-1$ 回目までに表が4回出て, n 回目に表が出る確率であるから

$$\begin{aligned} p_n &= {}_{n-1}C_4 \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1} \times \frac{1}{2} \\ &= \frac{(n-1)(n-2)(n-3)(n-4)}{4!} \left(\frac{1}{2}\right)^n \\ &= \frac{(n-1)(n-2)(n-3)(n-4)}{3 \cdot 2^{n+3}} \end{aligned}$$

(3) (2)の結果から

$$\begin{aligned} \frac{p_{n+1}}{p_n} &= \frac{n(n-1)(n-2)(n-3)}{3 \cdot 2^{n+4}} \cdot \frac{3 \cdot 2^{n+3}}{(n-1)(n-2)(n-3)(n-4)} \\ &= \frac{n}{2(n-4)} \end{aligned}$$

ゆえに $\frac{p_{n+1}}{p_n} - 1 = \frac{n}{2(n-4)} - 1 = \frac{8-n}{2(n-4)}$

したがって $p_5 < p_6 < p_7 < p_8 = p_9 > p_{10} > p_{11} > \dots$

よって, 最大値 $p_8 = p_9 = \frac{35}{256}$ ■

3 (1) $f(x) = e^{-x^2}$ より

$$f'(x) = -2xe^{-x^2}, \quad f''(x) = 2(2x^2 - 1)e^{-x^2}$$

$$f''(a) = 0 \text{ より } (a > 0) \quad 2a^2 - 1 = 0 \quad \text{よって} \quad a = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

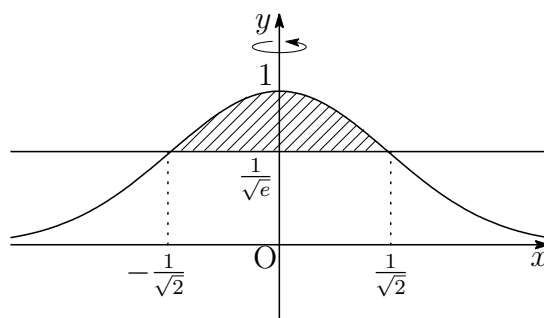
したがって、 $f(x)$ の増減および凹凸は次のようになる。

x	...	$-\frac{1}{\sqrt{2}}$...	0	...	$\frac{1}{\sqrt{2}}$...
$f'(x)$	+	+	+	0	-	-	-
$f''(x)$	+	0	-	-	-	0	+
$f(x)$	↗	$\frac{1}{\sqrt{e}}$	↗	1	↘	$\frac{1}{\sqrt{e}}$	↘

$$\text{変曲点は} \quad \left(-\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{e}}\right), \quad \left(\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{e}}\right)$$

(2) 求める回転体の体積を V とすると

$$\begin{aligned} V &= 2\pi \int_0^a x \{f(x) - f(a)\} dx = 2\pi \int_0^{\frac{1}{\sqrt{2}}} x \left(e^{-x^2} - \frac{1}{\sqrt{e}} \right) dx \\ &= \pi \left[-e^{-x^2} - \frac{x^2}{\sqrt{e}} \right]_0^{\frac{1}{\sqrt{2}}} = \pi \left(1 - \frac{3}{2\sqrt{e}} \right) \end{aligned}$$



バウムクーヘン型求積法

$a \leq x \leq b$ の範囲で $f(x) \geq 0$ のとき、 $y = f(x)$ のグラフと x 軸および 2 直線 $x = a$, $x = b$ で囲まれた部分を y 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積 V は

$$V = 2\pi \int_a^b x f(x) dx$$



4 (1) 3点 A(1), B(z), C(z²)に関する必要条件は

$$z \neq 1, \quad z^2 \neq 1, \quad z^2 \neq z \quad \text{すなわち} \quad z \neq 0, \pm 1 \quad (*)$$

このとき, $\angle BAC = \frac{\pi}{3}$ であるから

$$\frac{z^2 - 1}{z - 1} = \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3} \quad \text{ゆえに} \quad z + 1 = \frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2}i$$

$$\text{よって} \quad z = -\frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2}i$$

別解 AB = BC = CA $\neq 0$ より $|z - 1| = |z^2 - z| = |z^2 - 1| \neq 0$

$$|z - 1| = |z||z - 1| = |z + 1||z - 1| \neq 0$$

したがって $1 = |z| = |z - 1|, z \neq 1$

2円 $|z| = 1, |z - 1| = 1$ の交点であるから $z = -\frac{1}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2}i$

(2) (i) $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$ のとき, (*) に注意して $\frac{z^2 - 1}{z - 1} = z + 1$

上式は, 純虚数であるから

$$(z + 1) + \overline{(z + 1)} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \operatorname{Re}(z) = \frac{z + \bar{z}}{2} = -1, z \neq -1$$

(ii) $\angle ABC = \frac{\pi}{2}$ のとき, (*) に注意して $\frac{z^2 - z}{1 - z} = -z$

上式は, 純虚数であるから

$$-z + \overline{(-z)} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \operatorname{Re}(z) = 0, z \neq 0$$

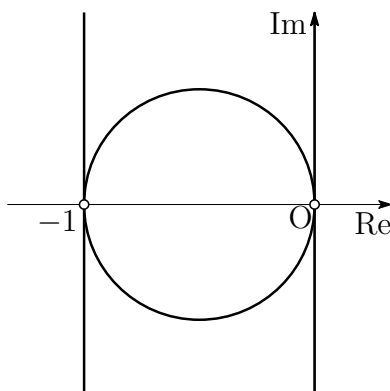
(iii) $\angle BCA = \frac{\pi}{2}$ のとき, (*) に注意して $\frac{1 - z^2}{z - z^2} = \frac{1 + z}{z}$

上式は, 純虚数であるから

$$\frac{1 + z}{z} + \overline{\left(\frac{1 + z}{z}\right)} = 0 \quad \text{整理すると} \quad \bar{z}(1 + z) + z(1 + \bar{z}) = 0$$

$$z\bar{z} + \frac{1}{2}z + \frac{1}{2}\bar{z} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \left|z + \frac{1}{2}\right| = \frac{1}{2}, z \neq 0, -1$$

(i)~(iii) より, 点 z 全体は, 下の図のようになる.



別解 $AB = |z - 1|$, $BC = |z^2 - z| = |z||z - 1|$, $CA = |1 - z^2| = |z + 1||z - 1|$

このとき, $AB \neq 0$, $BC \neq 0$, $CA \neq 0$ より $z \neq 0, \pm 1$

$AB : BC : CA = 1 : |z| : |z + 1|$ であるから, 次の (i)~(iii) の場合がある.

(i) $1^2 + |z + 1|^2 = |z|^2$ のとき

$$z + \bar{z} = -2 \quad \text{ゆえに} \quad \operatorname{Re}(z) = \frac{z + \bar{z}}{2} = -1, \quad z \neq -1$$

(ii) $1^2 + |z|^2 = |z + 1|^2$ のとき

$$z + \bar{z} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \operatorname{Re}(z) = \frac{z + \bar{z}}{2} = 0, \quad z \neq 0$$

(iii) $|z|^2 + |z + 1|^2 = 1^2$ のとき

$$z\bar{z} + \frac{1}{2}z + \frac{1}{2}\bar{z} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \left|z + \frac{1}{2}\right| = \frac{1}{2}, \quad z \neq 0, -1$$

5 (1) **2** (2)

(2) **2** (3)

6 (1) **4** (1)

(2) **4** (2)

■

■

■

- 7 (1) $y = x^2$ を微分すると $y' = 2x$
 ℓ は, 点 $P(t, t^2)$ を通り, 傾き $2t$ の直線であるから

$$y - t^2 = 2t(x - t) \quad \text{すなわち} \quad y = 2tx - t^2 \quad (*)$$

- (2) ℓ と x 軸との交点の x 座標は,
 (*) に $y = 0$ を代入して

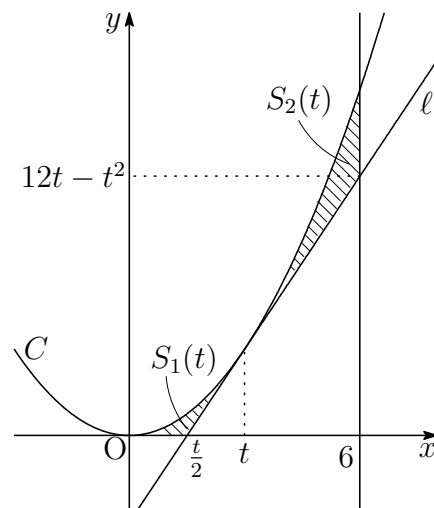
$$t(2x - t) = 0$$

$$t \neq 0 \text{ より} \quad x = \frac{t}{2}$$

- ℓ と直線 $x = 6$ との交点の y 座標は
 (*) に $x = 6$ を代入して

$$y = 12t - t^2$$

- $S(t) = S_1(t) + S_2(t)$ ($0 < t < 6$) は,
 右の図から



$$\begin{aligned} S(t) &= \int_0^6 x^2 dx - \frac{1}{2} \left(6 - \frac{t}{2}\right) (12t - t^2) \\ &= -\frac{1}{4}t^3 + 6t^2 - 36t + 72 \end{aligned}$$

- (3) (2) の結果から

$$\begin{aligned} S'(t) &= -\frac{3}{4}t^2 + 12t - 36 = -\frac{3}{4}(t^2 - 16t + 48) \\ &= -\frac{3}{4}(t - 4)(t - 12) \end{aligned}$$

したがって, $2 \leq t \leq 5$ における $S(t)$ の増減表は次のようになる.

t	2	...	4	...	5
$S'(t)$		-	0	+	
$S(t)$	22	↘	8	↗	$\frac{43}{4}$

よって 最大値 $S(2) = 22$, 最小値 $S(4) = 8$ ■

- 8 (1) 整式 $P(x) = x^3 + ax^2 + bx + 2$ が

$$P(x) = (x - n)(x^2 + px + q) \quad (*)$$

と表されるから, (*) を展開して

$$x^3 + ax^2 + bx + 2 = x^3 + (p - n)x^2 + (q - np)x - nq$$

同じ次数の項の係数が等しいから

$$a = p - n, \quad b = q - np, \quad 2 = -nq$$

したがって

$$p = a + n, \quad q = b + np, \quad nq = -2 \quad (**)$$

a, n は整数であるから, (**) の第1式より, p は整数.

また, b は整数であるから, (**) の第2式より, q は整数.

さらに, (**) の第3式より, n は2の約数である.

- (2) $P(x) = 0$ が異なる3つの整数解をもつとき, (*) より, 1つの整数解が n で他の2つの整数解を α, β とおくと, α, β は2次方程式

$$x^2 + px + q = 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

の解であるから, 解と係数の関係により

$$q = \alpha\beta$$

これを (**) の第3式に代入すると $n\alpha\beta = -2$

n, α, β は異なる整数であるから, これらは $1, -1, 2$

$P(x) = (x - 1)(x + 1)(x - 2)$ であるから

$$P(x) = x^3 - 2x^2 - x + 2$$

よって $a = -2, b = -1$

(3) 条件より, 2次方程式①が実数でない解をもつから, 係数について

$$p^2 - 4q < 0 \quad \dots \textcircled{2}$$

これから, $q > 0$ が必要条件で, (**)の第3式より, $n < 0$

さらに, (1)の結論から, $n = -1, -2$

(i) $n = -1$ を(**)に代入して

$$p = a - 1, \quad q = b - p, \quad q = 2$$

ゆえに, $p = a - 1, q = 2, b = a + 1$. ②により

$$(a - 1)^2 - 4 \cdot 2 < 0 \quad \text{これを満たす整数 } a \text{ は } a = -1, 0, 1, 2, 3$$

したがって, $(a, b) = (-1, 0), (0, 1), (1, 2), (2, 3), (3, 4)$ の5組

(ii) $n = -2$ を(**)に代入して

$$p = a - 2, \quad q = b - 2p, \quad q = 1$$

ゆえに, $p = a - 2, q = 1, b = 2a - 3$. ②により

$$(a - 2)^2 - 4 \cdot 1 < 0 \quad \text{これを満たす整数 } a \text{ は } a = 1, 2, 3$$

したがって, $(a, b) = (1, -1), (2, 1), (3, 3)$ の3組

(i),(ii)から, 求める組 (a, b) の個数は $5 + 3 = 8$ (個) ■